



ふれあい 放水路

1995
(平成7年)
第14号
5月



カヌー

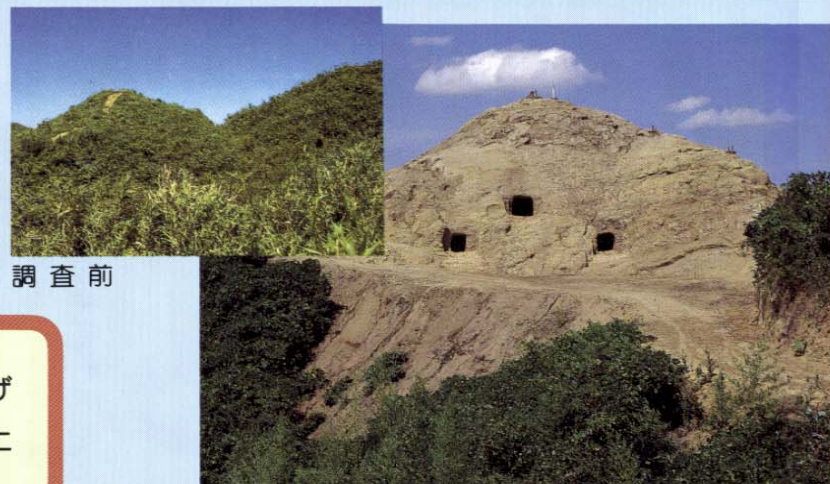
木々の緑が増し、風さわやかな五月の空の下、神戸川からカヌーの練習にはげむ元気な声が聞こえてきました。出雲農林高校のカヌー部のみなさんです。

出雲市、そして神戸川でカヌーをする唯一の部で、境橋のたもとに乗艇場があります。橋の上から見ていると、色鮮やかなカヌーが次々と約五〇〇メートルの距離を下っていきます。ふだんなにげなく見ている景色も、川の中から見ると違って感じられるでしょう。

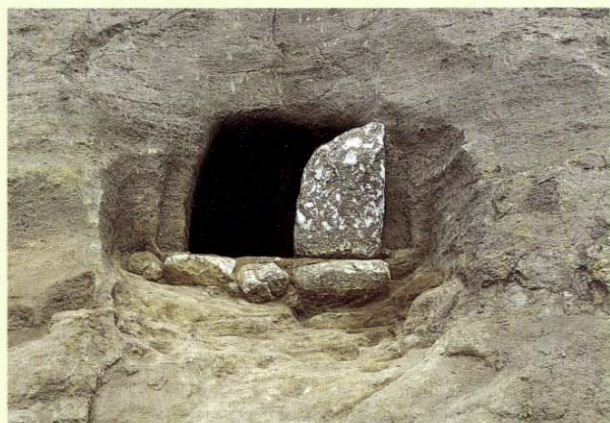
「いろんなものが流れてきますよ。やっぱりきれいな川で気持ち良くカヌーを漕ぎたいですね。」将来、川がひろがっても、今のような自然を残してほしいです。」

神戸川で水遊びやボート遊びなどをしなくなつたいま、直接川に触れ、見て、感じているこのカヌー部からの声は、川からの声と言えるでしょう。

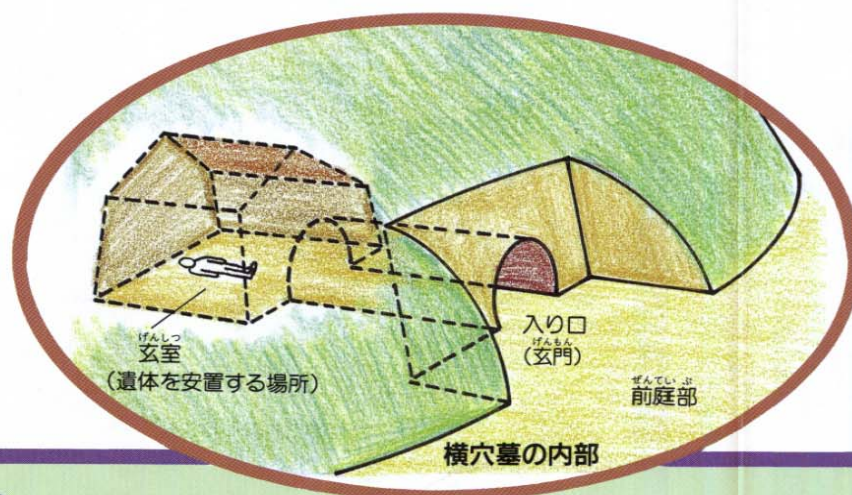
山の表土を削るまで、これらの穴は、外からは見えませんでした。しかし、この穴には過去に盗掘されていた跡が残っています。



石は別の場所から持って上がり、丁寧な仕上げをしています。山の上まで、どのように持ち上げたのでしょうか？



第36支群2号穴の入り口を塞ぐ石



横穴墓から出土したもの



お供えものを入れた容器(須恵器)



第21支群(横穴墓が一列に並んでいる)



金糸(大変珍しい昔のアクセサリー)



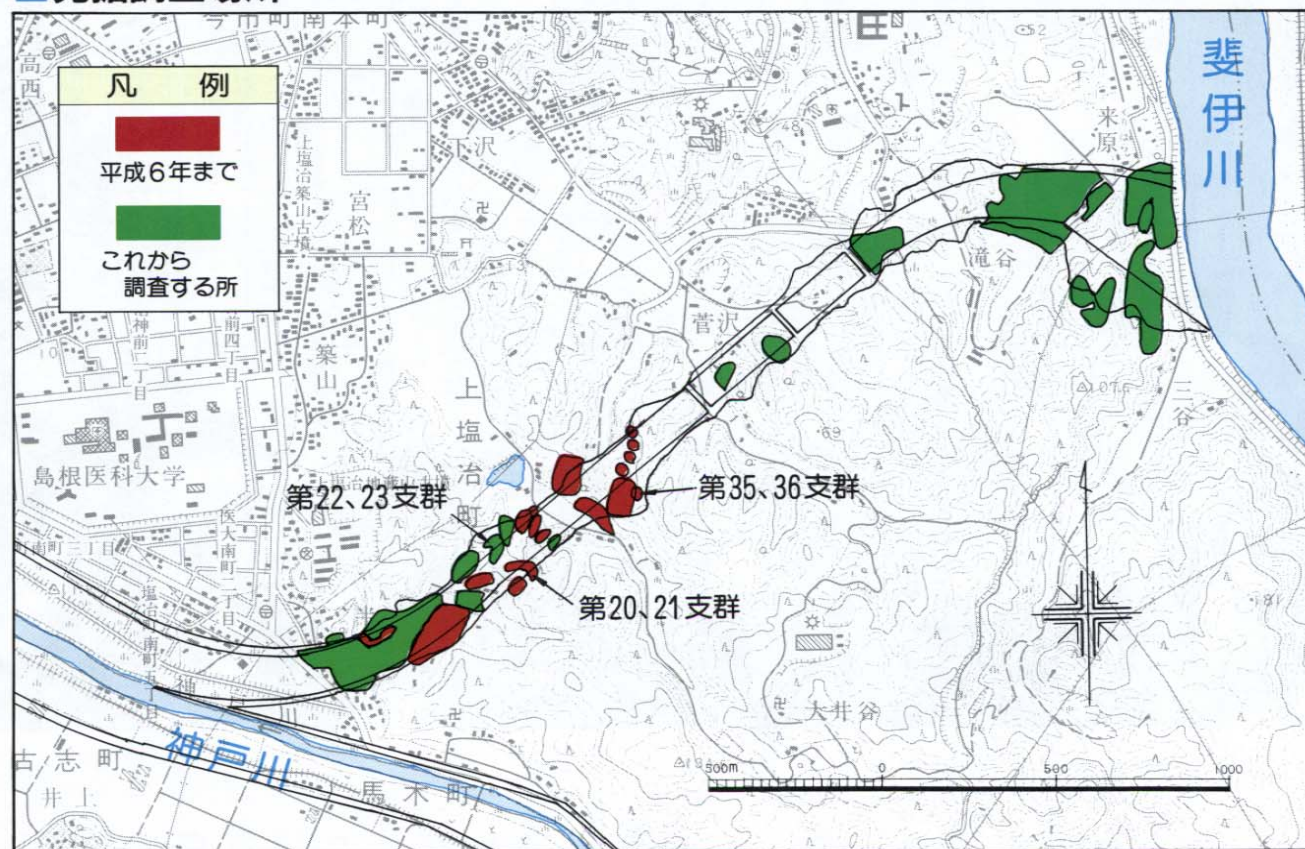
今年は、上塩冶横穴墓群第22・23支群の調査を行います。ここは上塩冶でも一番数の多い場所で、現在分かっているだけでも25穴あります。今後増える可能性があり、どんなものが出土するのか、楽しみです。

放水路事業予定地の埋蔵文化財

～(1)上塩冶横穴墓群について～

建設省出雲工事事務所では、斐伊川放水路事業の開削工事に伴い、埋蔵文化財について、平成3年4月から島根県教育委員会に委託し、発掘調査を行っています。いままで、「三田谷遺跡」「上塩冶横穴墓群」「大井谷城跡」などを調査しました。わたしたちの郷土には先人の残したすばらしいものがたくさんあります。そこで、これから3回シリーズで、これまでの発掘調査結果についてお知らせします。今回は、昨年調査した横穴墓を中心に紹介します。

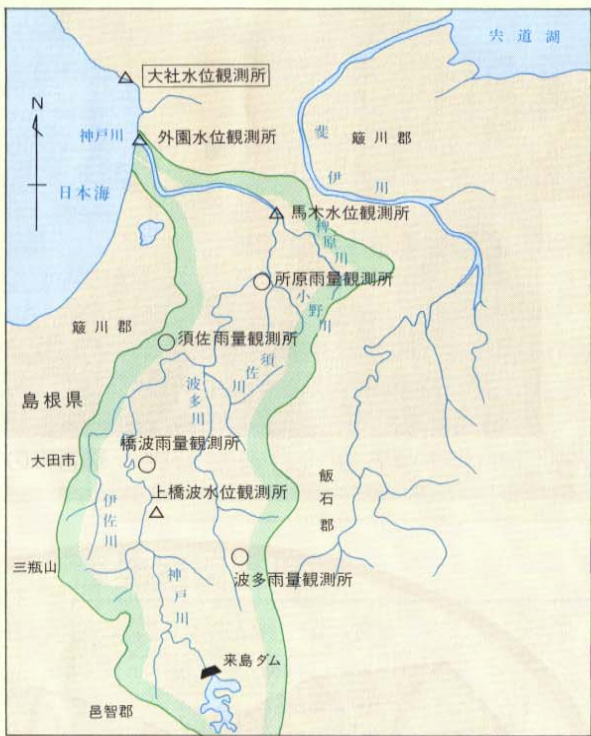
発掘調査場所



横穴墓は6世紀から7世紀にかけてのもので、上塩冶地区には全部で36支群あります。(ただし、放水路事業予定地外のものも含まれます。)これだけの数の横穴墓がまとまって残っているのは、中国地方でもここだけです。

支群とは、ひとかたまりの横穴墓などを表す単位であり、考古学で使われることばです。ふつう、1支群1家族で構成されているようです。

ふれあい
放水路
通信



大社水位観測所改築される

神戸川水系には、水位観測所四ヶ所、雨量観測所四ヶ所があり、洪水時の状況等を把握しています。大社水位観測所は老朽化が著しいため、今回、周りの景観に合わせて改築しました。



向原代替宅地竣工

昨年八月から進められていた向原地区の代替宅地造成工事が今年三月に終わり、四月二十六日に長浜公民館で、代替地提供者、移転者の方々をはじめ、関係者八十一名の出席のもと竣工記念式が行われました。

本紙第八号の工事情報コーナーで紹介したように、向原地区では神戸川の拡幅に伴い、三十七戸の住宅が移転の対象となり、その内二十三戸の方々の希望により、この場所へ集団移転することとなりました。

今後、順次住宅建築に着手する予定です。

第4回 東三瓶ポピーまつり ご案内

頓原町の志津見ダム建設予定地内に、六月上旬から中旬にかけて、ポピーの花畑が広がります。六月十一日(日)には写真撮影会、魚のつかみ捕りなど各種イベントが行われますので、ご家族お揃いでお出かけください。

(建設省斐伊川・神戸川
総合開発工事事務所)

放水路工事室設置!

出雲工事事務所では、今年度から放水路工事のプロジェクトチーム「放水路工事室」を設置し、工事体制の強化を図ります。

今後とも、出雲の誇りとなるような放水路事業完成を目指して頑張りますので、地元の皆様さまのご協力をお願いします。

*工事室主要メンバー

| | | |
|---------|---------|-------|
| 工事室長 | (技)副所長 | 佐藤 厚司 |
| 総括担当 | 建設専門官 | 安井 年重 |
| 現場担当 | 建設監督官 | 今岡 克己 |
| | 建設監督官 | 米田 明德 |
| 工事・設計担当 | 第三係工務係長 | 溝山 勇 |
| | 第二係長 | 保田 厚 |



建設省中国地方建設局
出雲工事事務所
〒693 出雲市塩治有原町5丁目1番地
☎(0853)21-1850

本誌に関するご意見やご要望などがございましたらお寄せください。

問い合わせ先: ふれあい放水路担当